

「時計館宝物館」新装開館

本年御鎮座七十年の記念事業として昨年博物館の改修工事が行われ、年末までに工事は竣工していましたが、開館に向けての諸準備に日時を要し、この四月一日より「時計館宝物館」として新装開館いたします。一階を時計館として時計関係品、二階を宝物館として絵画その他奉納品等の宝物を展示します。

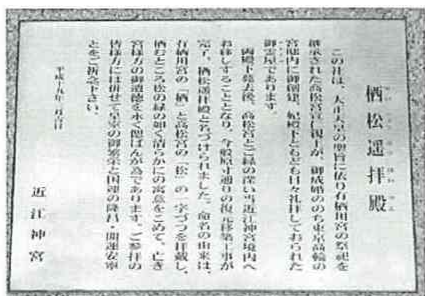
二階には企画展示室も設けられました。近江神宮とのゆかりの深い高松宮家では、妃殿下が亡くなられてのち、宮家に所蔵され、使用されていた調度品などの御遺品の一部を近江神宮にお譲りいただき、このたび開館に当って期間限定で特別展示します。

一階には時計工房も設け、従来どおり古時計の修理の要請にもお応えして行きますが、今後は公開型の工房となり、作業中であれば、修理の様子を見学することもできるようになります。



栖松遙拝殿

高松宮家では、かつて有栖川宮家の御歴代の祭祀を継承されていましたが、平成十六年に妃殿下薨去ののち、その祖霊社を解体することになり、近江神宮に下賜いただくことになりました。瑠穹社の位置を少し移してそこに移築させていただきました。各宮号から一字をいっただいて「栖松遙拝殿」と名付け、高松宮様、妃殿下、また有栖川宮家代々の御遺徳を偲ぶよすがとさせていただきますとしました。平成十九年四月以降、神武天皇祭・昭和天皇祭その他の遙拝式の際はここで行っています。



高松宮殿下御歌
すめ國のすすみゆくみちまつりごとみちびきまししあとぞたふとき

高松宮妃殿下御歌

おほみわざあふぐもかしこ志賀のみやにいますめ國のみちのしるべと

近江神宮御鎮座献詠歌より

春の流鏝馬神事 四月三日開催

近江神宮の流鏝馬神事は、平成二年に御鎮座五十年の奉祝行事として武田流鏝倉派（金子家堅理事長）の皆様により奉納されてより御鎮座記念祭に先立つ十一月三日に毎年奉納される例となり、昨年で第二十回となりました。

二十回を記念し、また、本年は近江神宮御鎮座七十年でもありませんので、その奉祝行事として、本年は春の桜の時節にも流鏝馬神事を行うことになりました。四月三日午後〇時三十分より内拝殿で行われる流鏝馬神事に続き、一時過ぎより表参道において流鏝馬の騎射が行われます。桜の開花がうまく巡り合えば、表参道の陽光桜とともに流鏝馬行事を鑑賞していただけれるものと存じます。当日は例年の十一月の流鏝馬の日と同様、十時十五分より境内の近江勸学館で流鏝馬教養講座も行われます。

（雨天の場合は翌日開催）
なお、本年十一月三日にも例年どおり流鏝馬を開催します。



陽光桜と染井吉野

流鏝馬の記事のなかで、「表参道の陽光桜」と書きましたが、表参道の一の鳥居と二の鳥居の間などにある、染井吉野よりもやや赤みの多い桜を陽光桜といっています。愛媛県の崇敬者によって品種改良が行われ、昭和五十六年に「陽光」の名で品種登録がなされました。近江神宮には昭和六十年に奉納植樹され、春の境内を賑わしています。表参道の桜は、植樹当初既に常緑樹が高く伸びていたために参道の南側の日照が悪く、南北の樹勢が違い過ぎるのが難ですが、保育園の下の斜面には、白っぽい染井吉野と赤みの差した陽光桜とが折り重なった姿が美しく眺められます。



春から初夏の祭典・行事

- 三月十七日 午前十一時 祈年祭
- 四月二十日 午前十時 例祭 勅使参向
- 四月二十五日 午後二時 近江まつり子供みこし渡御
- 五月二日～四日 野外現代いけばな展
- 五月十七日 午前十一時 (NPO いけばなワークス主催)
- 五月十七日 午前十一時 崇福寺鎮魂供養祭(崇福寺跡にて)
- 六月九日 午前十時 献茶祭
- 六月十日 午前十一時 漏刻祭
- 六月二十七日 午前十一時 献菓献煎茶祭
- 六月三十日 午前十一時 日供神饌講社大祭 饗宴祭
- 六月三十日 午後四時 大祓式